



靴箱を刷毛やローラーで塗装

日本建築仕上学会・女性ネットワークの会

塗装体験学習を実施

日本建築仕上学会・女性ネットワークの会(熊野康子主査)は、大阪市阿倍野区昭和町の桃山学院高校で12月16日から2日間、生徒による塗装体験会を実施した。

同校では校舎を大切に扱い、きれいにした後輩に受け継ぐ「リメイク活動」として、5年前から塗装体験会を実施している。今回は教員の下村圭司氏と生徒30人が参加し、生徒用靴箱(4段×12列)約10個、外側のみ塗装を行った。

女性ネットワークの会では、次世代の若者に建築の仕事を知ってもらおうと、活動を精力的に行っている。体験することで建築分野に関心を持ってもらい、将来業界で活躍する女子学生も増えることを期待し、以前から塗装技術指導や塗料調達などに力を入れてきた。

16日は、午前中に養生・ケレンを行い、午後1時からさび止め塗料をハケや塗装ローラーで塗装した。続いて、午後2時から教室でトークイベントを行った。

翌17日は、午後1時45分から上塗りを行い、その後掃除・跡片付けを行った。

多機能健康配慮水性塗料を使用。16日のトークイベントでは、関西ペイントの坂口学氏が塗料の説明を行った。女性ネットワークの会の熊野康子主査は同会の活動として展示会・講習会の開催、建築現場で働く女性へのアンケートを実施しており、「今後は建築DXにより3K(きつい・汚い・危険)のイメージが払拭されるだろう」と説明を行った。女性ネットワークの会運営委員会からは、「女性が働きやすい職場は、男性も働きやすくなる」などのコメントがあり、その後、参加した生徒たちからトークイベントに関するアンケートを実施した。